

# カーコンカーリース

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み **8,000円** (※) に含まれています。  
 さらに、ご契約期間満了時には車がもらえます。  
 ※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

## 「私は、一日266円で

(※)

## 車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません



※9年カーリースの場合  
 ボーナス月加算あり



カーコンカーリースの **0120-29-5353** <受付時間>8:00~22:00  
 お申込みお問い合わせは   〒108-0075 東京都港区港南 2-11-19 大滝ビル

### 世界環境とEV

少し先の車の仕様について、私なりの変化を原稿にしたいと思う。現在地球上で売れている車の総販売台数は、ざっくり9300万台。その中で、電気自動車（EV）の販売台数は、10%強。EUや日本も含めて、現在のEVは、冷遇されている。それはガソリン車やプラグインハイブリット（PHV）への需要を各自動車メーカーが無視できないことやEV購入への補助金を廃止する国が増えていること、さらには、充電に時間がかかることや、走行距離の問題などにある。一方で、2030年に世界の自動車販売台数は1億100万台となり、そのうちEVが45%を占める見通しといわれている。驚くなかれ、新車販売台数の割合でいうと、現在の新車販売台数の約5倍となる。

EV市場において、圧倒的にアドバンテージを取っているのは中国で、その中でもBYD（比亚迪）が世界戦略の中でも他を圧倒している。7月にフォルクスワーゲンが独国内工場の閉鎖を検討しているという話もある。EU各国は、米国と協調路線を元に、BYDなどへの中国製品の規制を始めたが、南米、アフリカ、そして中国の足元に当たる東南アジアに置いて、BYDの発展はとどまることを知らない。

今年の夏を考えれば分かる通り、海水温の上昇などの地球温暖化の影響は、全人類の恐怖になっており、しかも直近20年間の最大の課題になってきた。そのためにCO<sub>2</sub>排出規制が、地球レベルで統一されるのは時間の問題だ。さらにCO<sub>2</sub>排出の2割程度の根源になっている車の排出ガスについても、今後EVの普及という形で、規制の足並みが揃ってくるの

は間違いない。それ以降、おそらく、PHVとEVとガソリン車が共存しながら、徐々にそのシェアを変えていき、それと同じくして、車社会に対する考え方も、そして地球における車という存在の考え方も、大きく異なっていくだろう。私たちが環境問題の手がかり、あるいはきっかけとして、EVの問題を考え始めたとしても、地球の温暖化が止められるわけではない。というよりも、既にこの自然の脅威に対して、人間が小細工をしたところで間に合わなくなっている、という説もある。しかし、人類が手をこまねくことのできる現実的な時間もわずかだ。一口に言えば、「車が地球を救う」というスローガンがあり得る時代が来るのは間違いない。

今年、記録づくめの夏で、35度を超える猛暑日の日数や、1日の降雨量、さらには1時間当たりで歴代最高をたたき出した地点もある。日本は、能登半島の地震に続き、水の災害に見舞われた。私たちも身をもって温暖化を感じた年となった。そして、この現象は、来年も再来年も、さらに悪化の一途を辿りながら、私たちの生活を脅かすであろう。



**林 成治** Seiji Hayashi  
 出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業  
 1981年4月:プロミス株式会社入社  
 2008年4月:同社執行役員就任  
 2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任  
 2008年10月:同社代表取締役就任  
 2009年8月:パル債権回収株式会社 常務取締役就任  
 2010年4月:株式会社Doフィナンシャルサービス取締役就任  
 2011年1月:同社取締役退任  
 2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任